

14. 9～10 月の収穫割合が高いレモン「マグレーン」の特徴

1. 背景とねらい

露地栽培のレモンは、温暖な地域での 4 月収穫を除いて、11 月から 1 月にかけての収穫が一般的ですが、寒波被害を回避するためには、年内収穫割合を高める必要があります。また、9～10 月は施設栽培、長期貯蔵果実の販売が中心であり、高単価での取引が期待されます。そこで、肥大が早く早期収穫可能な「マグレーン」の時期別の収穫割合を明らかにし、早期出荷の可能性を検討します。

2. 成果の内容

対照の「リスボン」や「ピラフランカ」と比べた特性は以下のとおりです。

- 1) 月別収穫割合は、9～10 月が高く、10 月末までに 86.5%の果実を収穫できます。9～10 月の早期収穫割合は、対照品種と比べて高い傾向にあります（図 1）。
- 2) 果実の形と果径比は、対照品種と同等です（図 2、表 1、2）。
- 3) 果汁歩合は、9 月 30 日には 26.0%、10 月 28 日には 32.3%まで高くなり、対照品種と同様の増加傾向を示します（表 1、2）。
- 4) 果実重は、対照品種と比べて大きい傾向にあります（表 1、2）。10 月の果皮色はいずれもグリーンであり（図 2）、糖度やクエン酸含量は同等です（表 1、2）。
- 5) 以上の結果から、「マグレーン」は 9～10 月の収穫割合が高く、早期出荷用のレモンとして利用できる可能性があります。

3. 利用上の留意点

- 1) 果樹研究部三原圃場（三原市木原町）における 27～32 年生樹での単年度の成績であり、年次変動を調査する必要があります。
- 2) 「マグレーン」のトゲは、「リスボン」や「ピラフランカ」と比べて、長い傾向にあります。

（果樹研究部）

品種	果実重 (g)	果実径 (mm)		果径比 (横/縦)	果皮厚 (mm)	果汁歩合 (%)	Brix (°Brix)	酸度 (wt%)
		横	縦					
マグレーン	124	58	78	0.74	5.9	32.3	8.4	8.2
リスボン	102	56	69	0.81	5.6	32.2	8.7	8.3
ビラフランカ	108	57	72	0.78	5.7	31.3	8.9	8.5

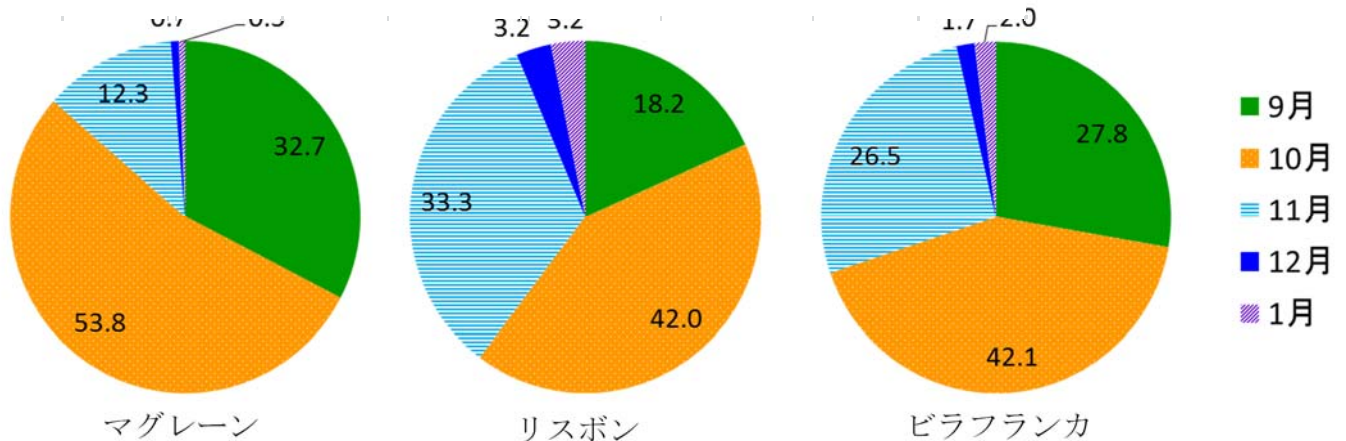


図1 レモン品種の違いが時期別収穫割合に及ぼす影響

1) 横径 55 mm 以上の果実を月に 1 回収穫し，全収量で除した値

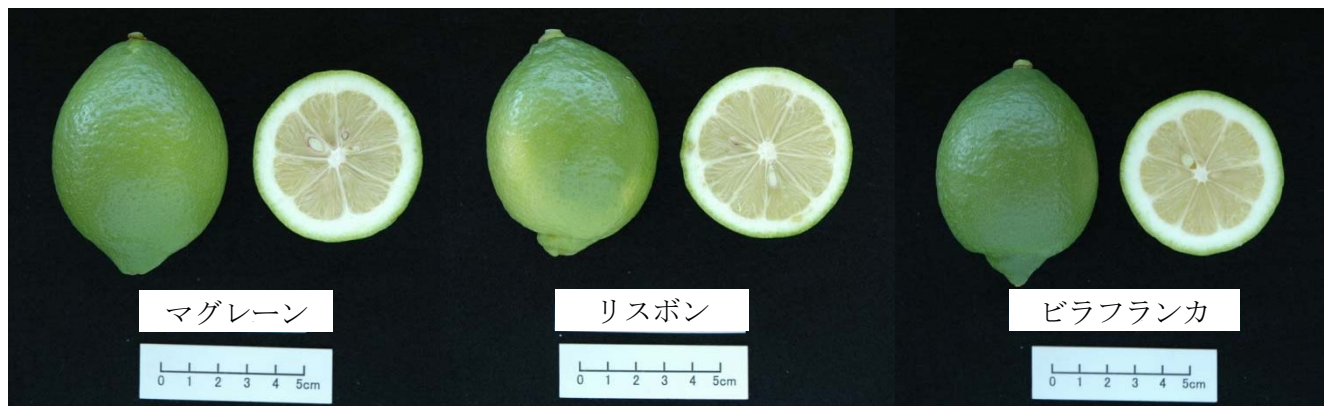


図2 マグレーンと対照品種（リスボン，ビラフランカ）の果実

表2 レモン品種の違いが果実形質に及ぼす影響（2015年9月30日収穫）

品 種	果実重 (g)	果実径(mm)		果径比 (横/縦)	果皮厚 (mm)	果汁歩合 (%)	糖度 (°Brix)	酸度 (mm)
		横	縦					
マグレーン	120	58	77	0.76	6.3	26.5	7.9	8.3
リスボン	103	56	72	0.78	5.7	27.0	8.3	8.2
ビラフランカ	114	58	77	0.75	6.5	26.0	8.1	8.2

1) 1区2~5樹，1樹5果の平均値

表3 レモン品種の違いが果実形質に及ぼす影響（2015年10月28日収穫）

品 種	果実重 (g)	果実径(mm)		果径比 (横/縦)	果皮厚 (mm)	果汁歩合 (%)	糖度 (°Brix)	酸度 (mm)
		横	縦					
マグレーン	124	58	78	0.74	5.9	32.3	8.4	8.2
リスボン	102	56	69	0.81	5.6	32.2	8.7	8.3
ビラフランカ	108	57	72	0.78	5.7	31.3	8.9	8.5

1) 1区2~5樹，1樹5果の平均値